

2010年度卒業論文題目	
キリスト教美術	蒔絵の意匠について
志賀理江子について	ジャン＝フランソワ・ミレー研究
五姓田義松考	おいしい浮世絵
シュルレアリスム絵画の空間表現について	裸体のヴィーナス
法隆寺夢殿救世観音像について	オーブリー・ビアズリーのサロメ像
モネの時間と空間表現	枯山水
日常理解	映画に見るゴッホ作品の受容とその変遷
カンディンスキー研究	日本美術における光と影
ラヴェンナ研究	奥原晴湖の熊谷時代
ビル・ヴィオラ研究	狩野派の障屏画
岡本太郎と『明日の神話』	中川幸夫研究
岡本太郎 そのまなざし	タマラ・ド・レンピッカ研究
妖怪について	宗教彫刻におけるベルニーニの演出
カール・マルクス・ホーフ研究	中国と日本の美術に登場する黒人の図像について
奈良美智論	「八万四千体地蔵」の研究
重森三玲研究	狩野芳崖「悲母観音」についての考察
臥遊	夢殿救世観音像造像考
インスタレーション研究	クリムト作品における装飾と平面性
ピアズリーの装飾美術	藤田嗣治 人のいない自画像
美術作品における天候の神の描かれ方	桂ゆき研究
宋紫石「獅子図」について	横浜トリエンナーレの可能性
ギュスターヴ・モロー《サロメ》連作におけるサロメの身体表象について	ジョン・エヴァレット・ミレイの《オフィーリア》
土田麦僊の舞妓について	酒井抱一《十二か月花鳥図》について
ペルソナ ‘仮’面	百鬼夜行絵巻の再検討
広隆寺宝冠弥勒について	アルノルト・ベックリーンの連作「死の島」についての考察
浅井忠の図案研究	文鳥百花繚乱
サンボア・ブレイ・クック遺跡とその美術	
2009年度卒業論文題目	
特異児童作品展覧会	イスパニアロマネスクの壁画
人体美	オランジュリー美術館〈睡蓮の間〉
心理分析からみるドガの芸術と生涯	タンテ・ゲイブリエル・ロセッティ
シュルレアリスムにおける絵画の匿名性	《見よ、われは主のはした女なり》研究
画家・ゴヤの描いた戦争「1808年5月3日」	ギュスターヴ・モローの〈サロメ〉
オスマン帝国のモスク	教会建築
高村智恵子の紙絵	セザンヌの「山」
キャラクター・プラモデル論	日本の植物画
宝石研究	田中一光研究
クリュニー修道院と「奇蹟」	いわさきちひろ
同性愛と美術	美しき男たち
1930年代の藤田嗣治の旅と作品	形象の解釈
ジャポニスムと自然主義	水石
ファミ・ファタルとしての水の精	マックス・エルンスト
『ローマの古代遺跡』	アンドリュー・ワイエスの死生観について
現代の大仏	伝橋夫人念持仏阿弥陀三尊像における蓮華の表現
西洋の蔵書票にみる動物表現	アイヌ文様の美
仏師湛慶	元信様式の意義について
1980年代ニューペインティングの潮流	聖セバスティアヌス研究
年老いたマグダラのマリア	美術史と音楽史の対話
曾我蕭白研究	中村彝研究
楊柳観音像について	ブリューゲルの風景
日本の美の美	岐阜正法寺の籠大仏について
ヒエロニムス・ボスの図像について	レンブラントと光
和文書体の成立と変遷	原罪と樂園追放について
混淆するデザイン	ミケランジェロについて
聖母マリア像に見る女性観の形成	アンディ・ウォーホル論
絵画のおわり	アンコールワットの浮彫彫刻について
パウル・クレーの文字絵	浮世絵に見る日本の美学

2008年度卒業論文題目	
サグラダ・ファミリアという楽器	ク
自画像について	同人誌製作における一考察
高松塚とキトラの四神図	尾形光琳受容史
若冲と応挙における写生表現	風景画に見る自然観の変遷
日本における裸体表現の受容と展開	グリューネヴァルトと宗教改革の関連性について
ジョルジュ・ド・ラトゥールの絵画におけるマグダラのマリア像	円空考
洋服における和柄	日本アニメ文化研究
食物の静物画	エゴン・シーレの母子像
尾形光琳にみる“粋”の系譜	絵画作品と光
美術館が今日抱える問題について	霍去病墓の馬踏匈奴について
ミケランジェロにおける未完成	少女マンガ・抒情花のルーツについて
日本美術における女性の領域	彦根屏風
サロメ像について	色と線の美
バーナード・リーチ	「琳派」形成史
ガンダール美術に表される異宗教の神々のモチーフについて	装飾写本『ケルズの書』
1960年代レコードジャケット	村上隆におけるアートの「新しさ」とそれがもたらす意味
ティツィアーノ《聖母被昇天》研究	「信貴山縁起絵巻」に関する一考察
ベルト・モリゾ	イメージの推移
森村泰昌に見る現代社会	頭塔造立に関する一考察
日本のアートプロジェクトの現在と未来	C・D・フリードリヒの廃墟表現について
古谷実研究	オスマン帝国期の女性衣装
展示空間の現在	若冲の精神と作品世界
2007年度卒業論文題目	
荒木飛呂彦研究	アルフォンソ・ミュシャ研究
アンディ・ウォーホル研究	アンリ・マティスの切り紙絵に関する諸考察
井伏鱒二とセザンヌ	印象派の画家と画商
エゴン・シーレ《死せる母》	江戸期の博物図
エドワード・ホッパー研究	王禅寺聖観音菩薩坐像と鎌倉仏師丹後賢俊
『かいじゅうたちのいるところ』論	ガウディとモデルニスモ
ガウディの創造性について	カウンターカルチャー
葛飾北斎の晩年における肉筆画の特徴	関羽・関帝の図像の特徴とその起源について
企業メセナにおける「美術」	ギュスターヴ・モローにおける詩人のモチーフについて
キリスト教美術の考察	近世における源氏絵の展開
熊谷守一の芸術性	クリムトとジャポニスム
グリューネヴァルトと宗教改革の関連性について	源氏物語絵
現代女性作家における少女の描写	広告美術
広隆寺の弥勒像	コーラン写本の装飾研究
ゴッホ「星月夜」解釈	ゴヤの生涯
サグラダ・ファミリアという楽器	挿絵画家 伊藤幾久造
シャガール芸術の特質	ジョットによる「聖フランチェスコ伝」研究
ジョルジョ・デ・キリコの古典回帰	水墨画の筆跡
水墨画の技法	杉浦非水とその時代
世紀転換期の建築と装飾	セルフ・ポートレートとイメージをめぐって
大蘇芳年の後期における作品について	朝鮮民画
寺山修司論	天使
ドラクワ作《サルダナパロスの死》から見るオリエンタリズム	奈良時代後期の十一面観音像について
日本絵画にみる高見に立つ人物について	日本美術に見られる星の図像
猫の図像学	「描表装」を考える
白鳳彫刻の源流	八吉祥文に関する考察
ピアズリー研究	ヒエロニムス・ボス研究
フィンセント・ファン・ゴッホ《一足の靴》をめぐって	フェルメール論
《フォーリー・ベルジェールの酒場》にみるエドゥアール・マネの 絵画的到達点	フリーダ・カーロ
『ベリー公のいとも美しき時禱書』における空間表現について	鳳凰・朱雀と中国思想
マンガ表現における印刷媒体とコマ	ミケランジェロ・ブオナローティ研究
メアリー・カサット研究	モーリス・ドニ研究
モサラベ美術について	ヤン・ファン・エイク研究
ヤン・ファン・エイクの《アルノルフィーニ夫妻の肖像》	ユリウス二世のパトロン活動について
龍頭について	ルネ・マグリットの形象

六月の少年たち	
2006年度卒業論文題目	
アール・ブリュット研究	アルチンボルド研究
イギリスファッション史とロック・ミュージック	イギリス歴代王室の肖像画に見る多様性
イサム・ノグチ研究	イタリア陶磁器の美
いわさきちひろの実像と虚像	浮世絵の発展を担った着物描写
歌川国芳研究	歌麿の春画研究
江戸前半期における金色に関する一考察	江戸の文人画家と煎茶について
沖縄文化の服飾史	神の表現
カラヴァッジョ考	贋作とクレジット
勸修寺繡仏の図像における考察	寛政期歌麿作品に見られる水茶屋
カンディンスキー《コンポジション》における抽象の変遷	伎楽面についての一考察
騎獅文殊菩薩像についての考察	木曾街道六拾九次における英泉画の特色について
北野天神縁起承久本成立の事情とその意義	近代日本木彫考
興福寺阿修羅像をめぐる	ゴヤの「黒い絵」
コロアの風景画研究	コンセプチュアル・アートと写真
サグラダ・ファミリア聖堂研究	シナン
シャネルの芸術性と社会的影響について	ジャポニスム研究
称名寺金堂壁画弥勒来迎図の復元的視点からの考察	神仏習合と寺院
谷内六郎と表紙絵	タロットカードの図像についての一考察
中国古代における中国人と土、その思想と造形	月岡芳年画「新形三十六怪撰」
デイヴィッド・ホックニーの時空間表現	中ザワヒデキの美術
肉髻珠の発生とその意味に関する考察	日本の文化財保護行政について
林忠正研究	ハンス・ホルバイン「死の舞踏」
百鬼夜行のすがた	表現主義と映画
広重「東海道」にうかがう作画態度と本意	仏壇彫刻の諸相について
フランク・ロイド・ライト研究	フランシス・ピカピア論
ベアトウス写本挿絵の《天上のエルサレム》	馬王堆漢墓帛画における生殖崇拜の表現について
マグリットとだまし絵	円山応挙における伝統と革新
文字と装飾	『病草紙』における人々
来迎阿弥陀三尊像に関する考察	裸体芸術における体毛の表象
柳宗理の「かたち」	ルネ・マグリット考
2005年度卒業論文題目	
アルフォンソ・マリア・ミュシャ研究	アンディ・ウォーホル
イコンの歴史とその神聖性	イスラームにおける装飾タイル
ウィーン19世紀末から20世紀はじめにおける装飾の問題	浮世絵に描かれた小袖文様
浮世絵美人考	歌川広重の江戸名所
歌麿の春画研究	雲岡石窟寺院
エゴン・シーレ研究	江戸中期から後期に興った茶色系の流行について
江戸時代の十二神将像の研究	絵巻に描かれた雲霞の研究
エミール・ガレのグロテスク	狩野山雪研究
ガブリエル・シャネルについて	CARAVAGGIO《Amore vincitore》
カリエ・ジャミイ《聖母の眠り》モザイク	ギリシア彫刻研究
近世絵画における意匠	近代の装幀と橋口五葉について
クリント・イーストウッドの哲学	クレーと精神病者の芸術
『Gregory Colbert』の世界	毛にまつわる美意識
源氏物語絵巻の人物表現	現代キューバの美術『キューバラしさを求めて』
ゴッガンによるドラクロワの素描模写についての考察	ゴッホ論
斎彬のガラス	社寺参詣曼荼羅
19世紀フランスのポスター芸術	集合写真の系譜
修復の方法とその限界	女性像と装身具
谷中安規の光と影	多摩の参道狛犬
ディック・ブルーナ論	ドイツの魔女
東海道五十三次における人物描写の考察	東寺講堂二十一尊造立における空海の意図
東大寺法華堂不空羂索観音像の造立について	21世紀の月岡芳年私考
日本絵画に描かれた秋の行事について	日本近現代における子供服の研究
日本における銀器の美術的価値	日本の素描
日本民藝館における伝統と創造	人形芸術、モチーフとしての身体と人形(ひとがた)
明治初期の印刷書体	長谷川等伯筆国宝・智積院障壁画について

バベルの塔について	ピカソの盲人
美術館	美術表現と政治
平安時代の仏教美術	ベルニーニ作《聖女テレサの法悦》について
北宋山水画の変遷	北斗七星と日本美術
マティスと装飾	マニエリスム研究
模型芸術試論	薬師寺東院堂聖観音像の研究
山田かまちから考える現代の美術	ラウル・デュフィ研究
理想の美人とは	六波羅蜜寺空也上人立像の研究
2004年度卒業論文題目	
アンディ・ウォーホルとその時代	維新期における浮世絵の意義
ウォーホルと社会	浮世絵師山東京伝
浮世絵の色彩について	絵巻にみえる身体表現
尾形光琳「紅白梅図屏風」と装飾性	鬼と美術史
おもちゃカメラの文化	音楽とアイコン
カラス画の諸相	ガンダーラ美術と仏像の起源
奇奇麒麟考	ギュスターヴ・モローの習作とフォルムの解体
キュビズムと科学的精神	金字塔塔曼荼羅に関して
興福寺阿修羅像の造形表現についての考察	古賀春江『海』考
ゴシック建築空間におけるステンドグラスについて	小林清親研究
サン・ヴィターレ聖堂について	ジェマイユについて
シャガールの色彩論	若冲における装飾性について
写真家桑原甲子雄	進化する現代マンガの表現技法
須田悦弘論	西洋美術における光輪について
世界遺産研究	セルフポートレート論
曾侯乙墓出土棺彩画の内容と表現について	体操競技における美の象徴『白樺のポーズ』
谷中安規研究	茶菓子の意匠
中国美術における正面観	ディエゴ・リベラ、壁画家への道
ディック・ブルーナ論	中原淳一研究
鉦彫り像について	奈良時代と鎌倉時代の仏像様式のつながり
20世紀日本の広告美術とその社会	日本近代における「美術家」の社会的受容について
日本・中国 仮面文化の古層	日本の装身具について
野見山暁治	ピアズリーの描く植物と女性
ヒエロニムス・ボス《快樂の園》における「空間」と「形態」の表象	フィンセント・ヴァン・ゴッホ論
藤田嗣治考	フリーダ・カーロのレアリスム
宝珠捧持形式の伝播について	ポール・セザンヌ「水浴図」
まちづくりと芸術文化	街と劇場
マネの「黒」	ミニマル・アート 連続する形態をめぐって
モンドリアンのニューヨーク時代晩年作(1941-1944)における造形上の変化について	与謝蕪村の人物表現について
ラヴェンナのアリオス派洗礼堂モザイクについて	流転する茶道具
レンブラントの集団肖像画と《夜警》—社会と評価—	ロマネスクの二身単頭像について